

南風たより

～みなみかぜたより～

30周年に向けて 一院長挨拶

平成29年度の初頭にあたりまして、皆様へ一言ご挨拶を申し上げます。今年には八尋理事長が赤江の地に南部病院を開院されて30年の記念の年となります。これまで八尋先生をはじめ多くの先輩方が一步一步、地区の皆様からの厚い信頼を築いて来られました。

平成26年10月より院長職を拝命し、その信頼の重さを身を以って感じている所でございます。今後は地域住民、医療福祉機関の皆様よりの信頼をさらに積み上げて参りますよう地道に努力を重ねて参りたいと存じます。

南部病院は73床の7対1一般病床有する急性期DPC病院です。近年の医療政策により各医療機関は地域包括ケアにおける役割・機能の明確化を迫られています。南部病院は、地域医療を支える民間の急性期病院としての立場を堅持し地域の医療資源ともいえます入院病床を地域の皆様により有効に活用して頂けます様に体制を整えて行きたいと存じます。

内視鏡や手術件数は年々増加しており平成28年には、胃内視鏡1635件 大腸内視鏡942件、手術件数543件(全身麻酔272件)となっています。口腔ケアチーム、栄養サポートチーム、癌相談支援チームも立ち上げ、院内医療体制の充実をはかっています。

学術的には平成28年2月に「第47回宮崎救急医学会」を主催させて頂きました。他、各種学会への発表も行うことができました。

地域連携としましては、強化型在宅療養支援病院として6医療機関の先生方と月1回のカンファレンスによる情報共有も図りながら、在宅医療の後方支援を行っています。又、第1回地域包括ケア交流会を開催し在宅医療を行なっておられる先生方や訪問看護ステーションの職員の方々との交流も行いました。

開院30周年を迎える今年も、さらに地域の皆様、医療介護施設の皆様の支えとなる病院を目指して体制整備に努めて参りたいと思っております。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

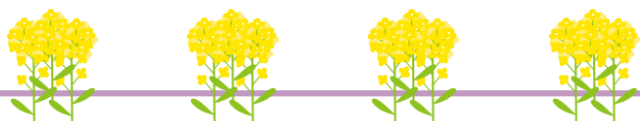


医療法人誠友会南部病院
院長 山成 英夫

受付時間変更のお知らせ

2月より、診療時間が変更になり、平日午後6時までの受付となりました。

午後6時以降の受付患者様当直医による診療となり、時間外加算が算定されます。ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解ください。





～宮崎医療連携実務者協議会報告～

平成29年2月4日 JA AZMホールにて第23回宮崎医療連携実務者協議会が開催されました。この協議会は宮崎県内の医療機関から、様々な職種の方が集まり患者様に適切な医療を提供できるように連携を深めていく目的で行われています。今回は、54施設から、37名の参加がありました。

施設紹介や診療報酬改定に関する講演と宮崎県福祉保健部の方から宮崎県の地域医療計画についての講演がありました。宮崎県の人口は平成22年には113万人ほどでしたが、年々減少を続けており、2040年には90万人まで減少すると予測されています。

また、2025年にはいわゆる団塊の世代が75歳以上となり高齢者の占める割合が最も多くなり医療や介護に必要とされる予算は膨らんでいくばかりです。一方、財政を支える若い世代の割合は今後ますます減少していくことが予想されます。日本の歳出の三分の一は借金である事、先進国の中では突出した借金残高である事など非常に深刻な状況であるとの講演でした。

限られた医療費の有効な活用のためには、各医療機関や介護施設は、密接に連携を取り、それぞれの機能を十分に活かせるようなシステムを形成する必要があるようです。

南部病院は主に急性期の患者様の診療を行っていますが、急性期を過ぎ病状が安定した患者様の健康を維持するためには、今後も地域の中で円滑に連携が行われるよう各部署のスタッフが協力していきたいと思えます。



國枝良行先生講演会

3月6日当院4階カンファレンス室にて田野町のあけぼの診療所院長 國枝良行先生の認知症に関する講演が行われました。当院スタッフ約40名とともに、その前に行われた強化型在宅医療機関カンファレンスにご参加頂いた川名先生、桑原先生、瀧口先生にもそのまま、約30分の講演に参加頂きました。

主に認知症患者とうつ病患者の違いや抗うつ薬の処方に関する留意点、高齢者の入院でよく起こりうるせん妄への対処方法などのご講演でした。眠れないという患者様への睡眠薬の選定基準にはどの先生方も苦慮されているようで、講演終了後は國枝先生

への質問がいくつも出ていました。



～リハビリ室紹介～



昨年、当院4階にリハビリ室が設置されたのをご存知でしょうか。バランスボール、エアロバイクやルームウォーカーも設置され、理学療法士言語聴覚士の指導のもと、患者さんのリハビリテーションを行っています。

東向きの部屋からは太平洋に臨む松原や宮崎空港の飛行機も遠くに見え、気候の良い時期は窓を開けて運動される方もいるとの事で、入院中の患者様は良い気分転換になるようです。

ただ、当院のリハビリ室は理学療法士1名と言語聴覚士1名の少人数体制のため、スタッフが各病室での訪問リハビリに伺っている時間帯は、安全面から部屋の利用ができません。ご理解とご協力をお願いいたします。

高齢者の入院も増えていきますので、リハビリの必要性は今後ますます高まっていくことが予想されます。退院後できるだけ早く元の生活に戻れるようなお手伝いができますよう内容を充実させていきたいと考えています。



東の窓から外を眺めながらの歩行訓練

編集局から
年齢を重ねれば必ずどこか悪くなります。2025年はもうすぐです。まず、自分ができることは、日々の健康に気をつけ重症になる前に早期に病気を治療する事かなと考えました。國枝先生講演会はカンファレンス室がいっぱいになる程の参加率でした。最近放送されたテレビの影響により必要ない患者様から睡眠薬の処方希望があると話され、マスコミの情報を鵜呑みにしないよう気をつけなくてはと感じました。

(文責石川)